

熊野詣と湯浅 - 熊野古道をめぐる物語 -

湯浅町内の熊野古道

京から熊野三山へ向かう参詣の道である熊野古道は、湯浅を南北に縦断しています。湯浅町内には、逆川王子と久米崎王子が置かれ、はじめは山手側を通っていたルートは、湯浅の町場が發展するのにあわせて、現在の道町を通るルートにかわっていきました。



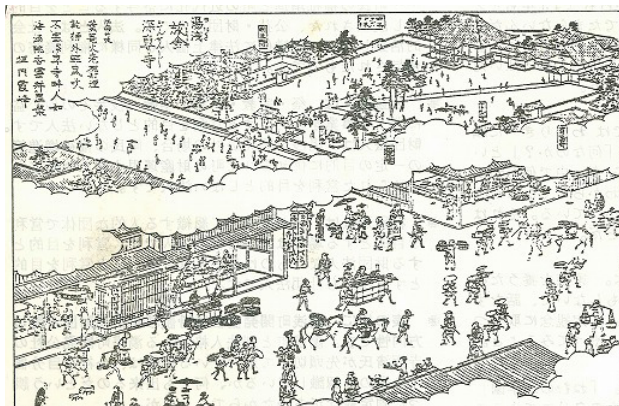
糸我峠の熊野古道

熊野古道の賑わい

道町界限は、江戸時代には西国三十三所巡礼や一般の街道としての通行もあって、多くの人が行き交いました。『紀伊国名所図会』には、立石と呼ばれる塔婆型の道標や、聖護院門跡が休憩・宿泊施設としても利用した深専寺とともに、旅籠や茶屋が並んで賑わう道町の様子が描かれています。

各地に伝わる伝承

吉川の糸我峠や逆川王子の周辺では、夜泣松の伝承や行者石など、熊野参詣に関係する伝承が伝わっています。湯浅の旧市街地、鍛冶町には後鳥羽上皇が腰をかけ月見を楽しんだという月見石の伝承があるなど、湯浅には様々な言い伝えが語り継がれています。



紀伊国名所図会（湯浅旅舎深専寺）

主な関連文化財



逆川王子

